

横須賀市笠島に漂着したコマッコウ (クジラ目: コマッコウ科) について

崎山直夫*・萩原清司**・村石健一**

Record of pygmy sperm whale, *Kogia breviceps* (Cetacea: Kogiidae) from Kasajima, Sagami Bay

SAKIYAMA Tadao*, HAGIWARA Kiyoshi**
and MURAISHI Kenichi**

キーワード: 海棲哺乳類, 鯨類, コマッコウ, コマッコウ科, 漂着

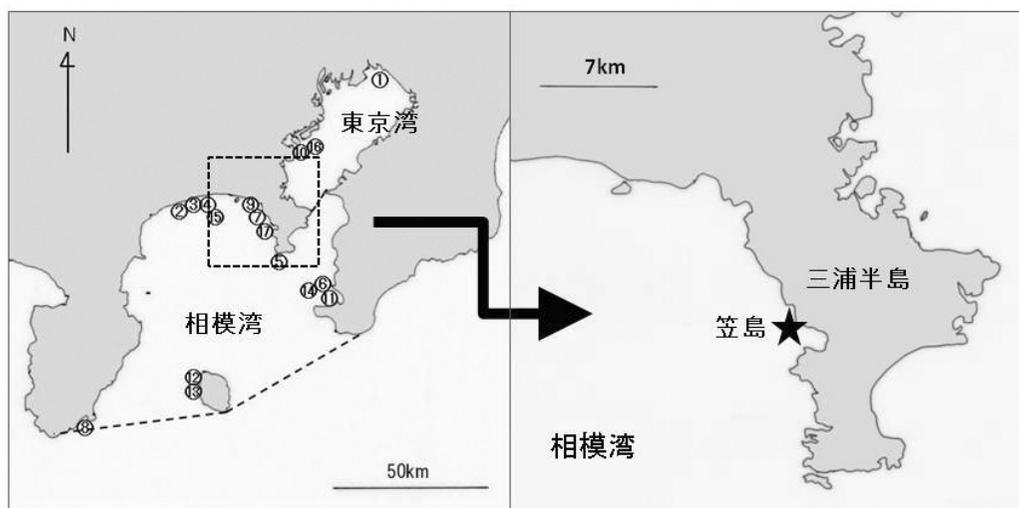
Key words: marine mammals, Cetacean, pygmy sperm whale, Kogiidae, stranding

はじめに

相模湾沿岸では、様々な海棲哺乳類が確認されているが(山田・磯貝, 1992; 中村ほか, 1994; 樽, 2006), 今回、相模湾東部の横須賀市笠島(第1図)にコマッコウ科 Kogiidae の1種、コマッコウ *Kogia breviceps* (de Blainville, 1838) が漂着したので報告する。

コマッコウ科はコマッコウとオガワコマッコウ *Kogia simus* (Owen, 1866) の1属2種からなる(なお、本報告において、オガワコマッコウの学名は Jefferson *et al.* (1993) に従い、*Kogia simus* を用いた)。両種ともに全世界の熱帯から温帯に分布し、外洋性で単独または数頭の群れをつくるとされる。噴気が確認しにくいことから海洋での観察例は少なく、座礁個体からの情報が多い。両種ともにワシントン条約 (CITES) 付属書ではII類に掲載され、国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは情報不足種 (Data Deficient) に指定されている (Jefferson *et al.*, 1993; 国立科学博物館 HP「海棲哺乳類図鑑」)。

こういった海棲哺乳類の漂着記録は、(財)日本鯨類研究所や国立科学博物館で集約を行っているが、各事例に関する単独報告は少ない。本報告で、当海域における鯨類分布・出現状況の1資料としたい。



第1図 相模湾と東京湾におけるコマッコウ科 Kogiidae の漂着位置 (左図: 番号は表1の事例番号) ならびに本報告個体の漂着位置 (右図: ★印)。

* 新江ノ島水族館 〒251-0035 藤沢市片瀬海岸 2-19-1

** 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 横須賀市深田台 95

漂着の状況について

2010年4月4日、相模湾東部、笠島の南東部の岩場に鯨類が漂着していることを、著者の一人である村石が発見した(第2図)。同日、干潮時に合わせて現場確認し、可能な範囲での計数・計測を行った。また、一部、肉片を持ち帰り、冷凍保存、その後、神奈川県立生命の星・地球博物館に移送し、標本番号KPM-NF1004264を与えて保存した。

漂着した前後は大潮の時期にあたり、その高い潮によって、北西～南東向きに深く切れ込んだ岩場まで入り込んだものと考えられた。なお、笠島は神奈川県指定の保護水域内に位置し、横須賀市自然・人文博物館により管理・保全されており、上陸は禁止されている。



第2図 コマッコウ *Kogia breviceps* の漂着の様子(後方は天神島)。



第3図 コマッコウ *Kogia breviceps* 体長3.28m(参考値)。

漂着個体について

漂着個体は右側面を上にして横臥していた(第3図)。そのためその時に目視確認できたのは右側面のみであった。死後長時間が経過しているようで、全体的にうっ血・擦傷傷、頭部・腹部・尾部などで皮膚の剥離、眼・胸鰭基部・肛門付近ほか側面数ヶ所に鳥などによると思われる食害の穴が確認された。下顎は折れ曲がり、歯は多くが欠落していた。しかし、頭部と下顎の形状、背鰭の形状から一見して、

コマッコウ科の1種であることが推察できた。

大型の個体であったため、3名では体の歪みを修正できなかった。そのため正確な計測はできなかった。目安の値として体長(上顎先端～尾鰭中央分岐部)は約3.28m(参考値)であった。下顎の歯数及び歯穴数の目視計数の合計は12であった。性別は肛門付近の食害により外部生殖器の形状は確認できなかったが、後日の解体の際、オスと確認された。

Jefferson *et al.* (1993)によると、コマッコウとオガワコマッコウの特徴について、コマッコウ(体長2.7～3.4m:歯数12～16:背鰭は小さく、体の前から2/3付近に位置)、オガワコマッコウ(体長2.7m以下:歯数8～11、まれに13:背鰭は高く、背中中央付近に位置)とある。これらの情報と本漂着個体(体長約3.28m:歯数12:背鰭は小さく、体の前から2/3付近に位置)を比較し、コマッコウと同定した。

相模湾、東京湾でのコマッコウ科の記録

1927～2008年の間に、日本国内でコマッコウ科の漂着記録は141件あった(国立科学博物館HP「海棲哺乳類ストランディングデータベース」)。全国的に散見されるが東日本から南日本にかけての報告が多く、北方や日本海側で少ない。

同様に、相模湾(房総半島野島崎～伊豆大島南端～伊豆半島石廊崎の北方)と東京湾へのコマッコウ科の漂着記録を第1表、ならびに第1図に示した(国立科学博物館HP「海棲哺乳類ストランディングデータベース」、(財)日本鯨類研究所HP「ストランディングレコード」、山田・磯貝(1992)、中村ほか(1994)、江の島水族館(未発表)。これらによると本科の漂着は16件、20個体あり、確認時期はほぼ周年、場所は伊豆大島、伊豆半島、相模湾奥、三浦半島、房総半島と相模湾周辺の広範囲に渡っている。体長は仔個体を含めると1.30～3.08mの範囲で、性別はオス:メス:不明が、6:12:2であった。これらの記録と比較すると、今回の17件、21頭目の漂着個体は、これまでの記録と同様で、単独あるいは数頭の小さな群れでいた当個体が何らかの理由で死亡し、漂着したものと思われる。死因については不明である。体長については当海域で確認されたコマッコウの中で最大クラスの個体と考えられた。

漂着個体その後

漂着個体はその後、近隣の漁業に影響を与えることが危惧されたことから、その場で解体、一部は埋設、残りは廃棄処分された。

第1表 相模湾と東京湾に漂着・記録されたコマッコウ科 Kogiidae.

事例	和名	学名	年.月.日	場所	体長(m)	性別	出典
1	コマッコウ	<i>Kogia breviceps</i>	1927.10.01	千葉県千葉郡津田沼町	-	オス	1
2	"	"	1963.08.17	神奈川県中郡大磯町	2.87	メス	1, 4
3	"	"	1967.04.13	神奈川県平塚市	1.8	オス	1, 4
4	"	"	1975.07.08	神奈川県茅ヶ崎市	2.05	オス	1, 5
5	"	"	1978.08.25	神奈川県三浦市	2.8	メス	1, 3, 4
"	"	"	"	"	1.3	メス	1, 3, 4
6	"	"	1986.03.19	千葉県安房郡富浦町	2.14	メス	1
7	"	"	1991.04.24	神奈川県逗子市	2.45	メス	1, 4, 5
8	"	"	1994.11.28	静岡県下田市	1.67	メス	1
9	オガワコマッコウ	<i>Kogia simus</i>	1999.03.30	神奈川県鎌倉市	2.2	メス	1, 5
10	コマッコウ	<i>Kogia breviceps</i>	2000.05.30	神奈川県横浜市	3.06	オス	1
11	"	"	2001.12.15	千葉県館山市	1.67	メス	1
"	"	"	"	"	1.92	-	1
12	"	"	2002.07.12	東京都大島町	3.08	オス	1
"	"	"	"	"	2.78	メス	1
13	"	"	2002.07.19	東京都大島町	2.12	オス	1
"	"	"	"	"	2.72	メス	1
14	"	"	2003.01.28	千葉県安房郡和田町	1.86	メス	1
15	"	"	2004.08.18	神奈川県茅ヶ崎市	2.6	メス	1, 2
16	"	"	2008.11.04	神奈川県横浜市	-	-	1, 2
17	"	"	2010.04.04	神奈川県横須賀市笠島	3.28(参考値)	オス	6

出典

1. 国立科学博物館HP「海棲哺乳類ストランディングデータベース」
2. (財)日本鯨類研究所HP「ストランディングレコード」2003年9月～2009年12月
3. 山田・磯貝(1992)
4. 中村ほか(1994)
5. 江の島水族館による現地確認(未発表)
6. 本報告

謝 辞

本報告を作成するにあたり、標本登録の便をはかっていただいた神奈川県立生命の星・地球博物館の樽創氏、報告の機会を与えていただいた新江ノ島水族館の堀由紀子館長はじめ展示飼育グループのみなさまに感謝の意を表す。

引用文献

Jefferson T.A., Leatherwood S. and Webber M.A. 1993.

Kogia breviceps, *Kogia simus*. Marine Mammals of the World: 70-73. FAO.

中村一恵・山口佳秀・平田寛重・浜口哲一 1994. 神奈川県沿岸産海棲哺乳類目録. 神奈川自然誌資料, (16): 1-9.

樽 創 2006. 2005年のストランディングから. 自然科学のとびら, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 12(3): 20-21.

山田和彦・磯貝高弘 1992. 三浦半島周辺における鯨類のストランディングレコード. 京急油壺マリンパーク水族館年報, (16): 24-28.

